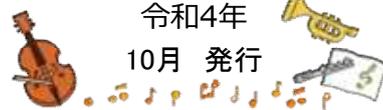


文書館通信

15号

東御市文書館
令和4年
10月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312
東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717
✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

今年は、善光寺御開帳や各地神社の御柱祭がありました。そこで、今月号は庶民の信仰心にちなんだ古文書をご紹介します。

【代参（だいさん）】 村や「講（こう）」と呼ばれる仲間の中で、遠方まで全員がお参りに行けないので、代表して皆の願い事を祈りにお参りすることを言います。

これらは、伊勢神宮への代参史料です。代参に必要な費用は、講の仲間で旅費やお札の代金を取り集めています。無事に帰ってくると、講の仲間で安着を祝い、お札を配りました。

天保九年
戌極月廿三日 出立
翌十亥正月十五日 着
弥三郎代参ニ遣下向之節祝義受納帳
荻原平左衛門

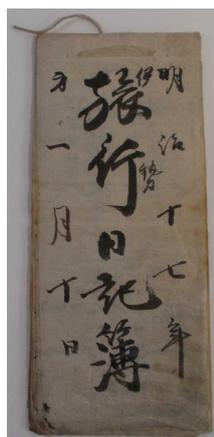


中曽根村庄屋荻原家文書 台帳No.1808
天保9(1838)年

文政六癸未年
二月
伊勢代参金取廻し帳
下野城村
役所



下之城村庄屋渡邊家文書 台帳No.5298
文政6(1823)年



藤田家文書 台帳No.56
明治17(1884)

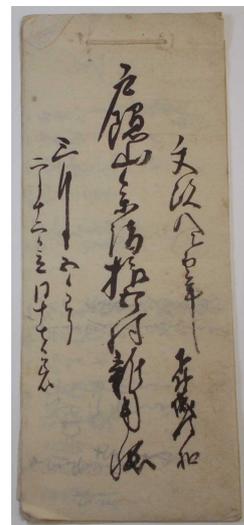
本海野村の藤田三左衛門(58歳)と関七蔵(28歳)が伊勢参りに行った時の道中日記です。どの道を通って行ったか、どの宿でいくら支払ったかが書かれています。

周辺の村々が、お金を出し合って、戸隠山神社へ参詣した史料です。

坂井村・羽毛山村・狐塚村
長瀬村・布下村・鳴川原村・
八重原村・藤原田村
下野城村・石井村・中丸子村
南方村・印内村・下丸子村
大日向村のなど割当金額が書かれています。

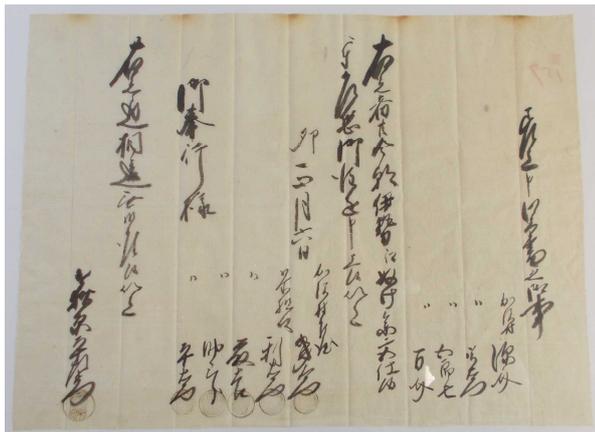
※表題には15ヶ村とありますが、本文中には16の村名が登場します。

文政八乙酉年
三月五日 戸隠山参詣拾五ヶ村誰用帳
二月十二日立同十七日 着
下野城村扣(控)



下之城村庄屋渡邊家文書 台帳No.5300
文政8(1825)年

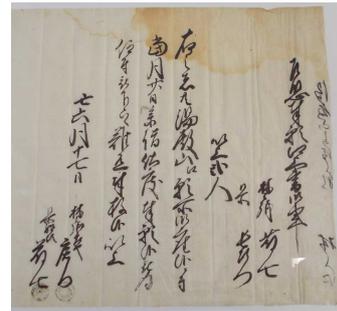
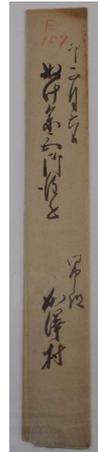
【抜け参（ぬけまいり）】親や村役人の許しを得ず、抜け出して伊勢参宮をすることです。



中曽根村庄屋萩原家文書 台帳No.1378 年不詳

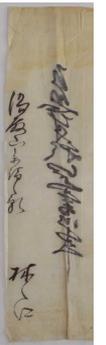
ぬけ参宮御注進（加沢村）

卯正月六日 田中組



中曽根村庄屋萩原家文書 台帳No.2436 年不詳

湯殿山参詣之願（端裏書）



出羽三山に数えられる、山形県の湯殿神社に参詣する林之郷（はやしのごう）の2人について、庄屋と組頭から出された願書です。

【三峯講（みつみねこう）】

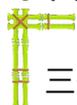
三峯神社は、埼玉県秩父山系の三峰にある神社で、秩父神社・宝登山神社と共に、秩父三山の一社です。狼（お犬様）を守護神とし、狛犬の代わりに狼の像が鎮座しています。火難・盗難除けや猪除け、農耕の神様、狩猟の神として信仰されており、現代でも関東最強のパワースポットと言われ、大変人気のある神社です。

右の史料は、守護神である「お犬様を拝借」して、そのお札は一年後に返しに行く、「三峯講」(みつみねこう)の記録で、八反田（はったんだ）・下之城・田之尻・玉ノ井・畔田の5村と139名の村人が、入用金や縄を出し合ったことが記されています。

安永二癸巳年
三峯山御犬拝借入用割合帳
四月八日



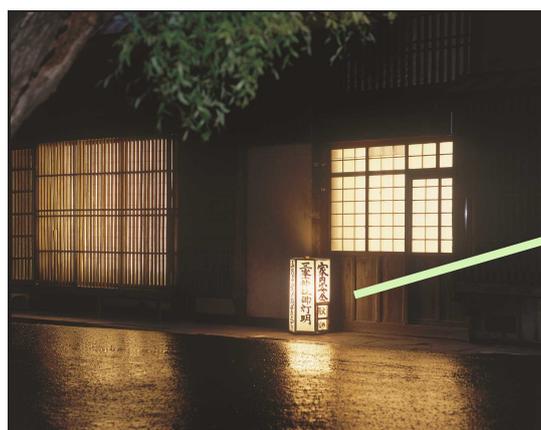
下之城村庄屋渡邊家文書 台帳No.5248 安永2(1773)年



三峯講関連野外資料～信州北国街道 海野宿～

今回、ご紹介した庶民信仰の【三峯講】に関する実物資料は現在も海野宿資料館で見ることができます。

右の写真は、天明4年の火災を機に田中宿と共同で火事の守護神でもある三峯神社に代参し、宿場の安全を祈り



重要伝統的建造物群保存地区 海野宿

【三峯神社御灯明】と書かれた灯明を持ち回り、軒先に燈している様子です。

(しなの鉄道大屋駅または田中駅下車徒歩20分。
東御湯の丸インターより車で10分)
宿場内施設：海野宿資料館・海野宿玩具館

この御燈明は、海野宿では三峯神社の代参当番が回ってきた家の入口に、順番に置かれる約束になっていました。